



日本の夫のジレンマ

にほん おと

土屋 賢二
つちや けんじ

ほとんどの日本の家庭では、お金の管理は妻の仕事である。妻が働いていてもいなくても、夫は必要な金を妻からもらっている。財布のひもをにぎっている外国人の男から見ると、なぜこのような重要な権利を放棄するのか、理解できないだろう。実際、日本の男であるわたしにも、よく分からないのだ。

この習慣は最近始まったことではない。昔は、給料日になると、男がもってきた給料を給料袋に入ったまま全額、妻に渡し、妻は「ありがとう」と感謝の気持ちを表していた。この儀式によって、夫は、一家を支えているのは自分だ、という誇りをもつことができたが、それとひきかえに、必要な金は妻にもらわなくてはならなかった。

最近では、給料は銀行に振り込まれるようになったため、この儀式は姿を消し、家計を管理する妻は、銀行からお金を引き出すだけでよかった。相当数の夫は、預金通帳がどこにあるかを知らず、ATMでお金を引き出すためのパスワードを教えられていない。

この結果、妻は「金は天から降ってくるもの」と思うようになり、夫は「金は妻にもらうもの」と思うよ

うになった。今では、夫が妻から必要な金をもらうときに「ありがとう」と感謝の気持ちを表すようになっている。

こうして、日本の妻は強くなり、日本の男は誇りを失った。日本の男たちは、給料を銀行に振り込む制度が悪いと考えているが、それは誤りである。銀行振り込みがあったとしても、預金通帳を夫が管理していればこのような事態にはならなかっただろう。原因は、給料を全額妻に渡し習慣にある。

わたしの推測では、この習慣の裏には、「お金にこだわるのは恥ずかしいことだ」という伝統的美意識がある。たしかに、立派な人物ならお金に細かくこだわることはないだろう。もし、男が、大富豪であるか、お金を必要としない人間であるか、本当にお金に無関心であるかであれば、立派な人物になるのに問題はなかっただろう。しかし残念なことに、ほとんどの日本の夫は、大富豪ではなく、お金がほしくてお金にこだわる人間である。そういう人間が立派な人物であろうとしてお金にこだわらない態度をとるところに、日本の夫の苦悩がある。立派な人物でありたい、しかしお金もほしい。これが日本の夫が抱えているジレンマである。

(お茶の水女子大学教授)

表紙エッセイ

日本の夫のジレンマ

土屋賢二 (お茶の水女子大学教授)

Essay

Japanese husband facing a dilemma

Kenji Tsuchiya (Professor, Ochanomizu Women's University)

読者から

教育実践レポート①コンピュータを利用した

新しい日本語学習の試み

ホームページの作成による日本語学習

氏家研一 (米国ノワシントン・アンド・リー大学

東洋学部日本語科助教授)

From Our Readers

Japanese Language Teaching Around the World

①New Attempt to Study Japanese Language with Computer(Cyberspace). Making Homepage in Japanese

Ken'ichi Ujie (Associate Professor of Japanese Dept. of East Asian Languages and Literatures, Washington and Lee University)

中・上級 新聞・雑誌から見る現代日本

第2回 社会貢献

本コーナーは著作権の関係でホームページへの掲載ができません。

Intermediate and advanced

Aspect of Japan Today in the Newspaper and Magazine

Contribution to Society

(This article is prohibited to appear on the web sight by copyright holder.)

特別報告

第10回 国際懇談会

「専門分野の日本語教育を考える 世界の外交官研修」

国際交流基金関西国際センター研修事業課

Special Report

The 10th International Colloquium

An Overview on Language Training Programs for Specialists

- Language Training Programs for Foreign-Service Officials among Nations

初・中級 写真で見る日本人の生活

食べ物 日本人が好きな料理

Beginning and intermediate

Japanese Life As Seen in Photographs

Food - Japanese Favorite Dish

初級 授業のヒント

日本人と話そう

Beginning

Hints For Teaching the Japanese-Language

Let's Talk with Japanese

本ばこ (新刊教材・図書紹介)

Book Shelf : Introduction of New Titles

国際交流基金開発教材紹介

『教科書を作ろう』

中等教育向け初級日本語素材集

Teaching Material Developed by the Japan Foundation

Publication of 『Kyookasho o Tsukuroo - Basic Resources for Secondary-Level Japanese “ Activities ” “ Grammar Notes ”』

海外日本語教育Q&A

本コーナーは著作権の関係でホームページへの掲載ができません。

Overseas Japanese-Language Education Q&A

(This article is prohibited to appear on the web sight by copyright holder.)

ニュース・編集部から

Miscellaneous News・From the Editors

マークは、読者が教えている生徒のレベルを示します。

mark indicates the level of students whom readers are teaching

読者から

私は韓国にある大田保健大学で、教養科目である日本語を教えている者です。

今年から国の方針で、日本文化が開放され、私どもの大学では、ほとんどの科で選択、教養、必修等で日本語の授業をすることになり、私一人で8科700人ぐらゐの学生に日本語を教えることになりました。

2年制の大学で、1年生から2年生まで各学期授業をしますが、教科書の選択がものすごくむずかしいです。

日本語専攻でないものですから、むずかしく教えると学生にはイヤがられるし、又、あまりかんたんですと何をしているのか分からず、困っていたところ、友達が持っていた『日本語教育通信』を知りました。これは私にとっても学生にとってもものすごくためになり参考になりました。

ある意味でむずかしい教科書よりもずっと勉強になり、

これからもぜひ授業の参考にしたいと思いますので、どうぞよろしくおねがいいたします。

(大韓民国 大田保健大学 李 福順)

●お手紙は編集部で要約・編集して掲載しました。

表紙エッセイプロフィール

土屋賢二 (つちや けんじ)

お茶の水女子大学文教育学部哲学科教授。東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士課程修了。著書は「ギリシア人の経験」「われ笑う、ゆえにわれあり」「われ大いに笑う、ゆえにわれ笑う」など多数。また週間文春でエッセイ「柵から哲学」を好評連載中。

ホームページの作成による 日本語学習

米国
べい こく

ワシントン・アンド・リー大学
だいがく
東洋学部日本語科助教授
とうようがくぶ にほんごがく じゆきょうじゆ

氏家研一
うじ いえ けん いち

このコーナーでは、特色ある日本語教育を実践している機関の教師の方々に、現場のコースデザインやコース運営の状況について、紹介していただきます。

1 ワシントン・アンド・リー大学での日本語教育

当大学の日本語教育は1974年に始まった。初めは数人の学生で始まったが、徐々に学生数が増加し、現在は1年生15人、2年生13人、3年生6人、4年生1人、5年生1人である。筆者が2、3、4年生を、アメリカ人教師が1年生と5年生を担当している。他に常勤の助手が1人いて1、2年生の口頭ドリルをする。

授業は1、2年生は毎日1時間で年150時間、3年生以上は週3回90時間である。当大学は外国語2年学習が必修で、多くの学生は高校で勉強したスペイン語やフランス語を続けるが、日本に興味を持った学生が日本語を勉強している。1、2年生は水谷夫妻の“Introduction to Modern Japanese”を3、4年生は三浦/マグローインの“An Integrated Approach to Intermediate Japanese”を使って教えている。

当大学の特徴は、日本のものをいろいろと授業に取り入れている点である。カラオケを、聞き取りや辞書を読む練習をするために利用したり、和食のレシピ(作り方)を読む練習をした後でその料理を作ったりする。更に、最新のテクノロジーも大いに活用している。学生は1年生の初めからランゲージ・ラボで日本語のワープロを使ったり、バーコードを用いてレーザーディスクを見たり、レーザーディスクを用いてここで独自に開発したコンピュータ教材を使ったり、当大学で撮影したビデオを使って作ったコンピュータ教材で会話を覚えたりしている。教師は日本語のEメールを利用してハンドアウトを配布したり、学生とコミュニケーションをはかっている。

インターネットが注目されるようになってからは、3年生以上のクラスで毎週一度金曜日にランゲージ・ラボで日本語で自分のホームページを作るアクティビティも取り入れた。授業時間(12時間)家で文章を書いた



学生が作成したホームページの読み練習の風景

り間違いを直したりする時間(30数時間)など合計して約50時間もあればかなり充実したホームページができる。書く練習にいいだろうと思って始めたが、予想以上に効果があり、やり方によって四技能全部が伸ばせることが分かった。コンピュータで日本語が使える環境にあれば、ホームページ作成のアクティビティは簡単なので、このレポートでは当大学で行ったホームページ作成のアクティビティの実情について報告したい。

2 ホームページ作成のアクティビティ

数年前から、インターネットで日本語のホームページを作って今までに作成した読み教材を他の日本語の先生方とシェアしてきたが(注1)1995年秋、実験的に学生に日本語でホームページを作らせてみたら、学生の反応が非常に良かったので、1996年より正規の授業の一環として3年生と4年生にホームページ作りをさせたところ、様々なメリットがあることが判明した。このレポートでは、

1. 学生が書いたものがホームページに載るまでの過程
2. インターネットを日本語学習に使用した際の利点
3. ホームページ作りの利点
4. ホームページ作りの問題点とその解決法について論じる。



学生が直した間違いをチェックする筆者

3 学生が書いたものがホームページに載るまでの過程

3 1. 日本語ワープロで文書を作成

ホームページ作成の最初の段階は、日本語のワープロを使って文書を作成することである。ワープロに慣れさせるためにプロセスを追って様々な作業をさせる。初めに、長音、発音、促音などの特別な文字やカタカナ、英文の書き方などの学習をする。学生が書き方慣れたら、次に、教師が紙に書いた簡単な文章を全く同じように書く練習をさせる。更に、「きのうバーガーキングでミルクシェーキを三つ注文しました」など片仮名の言葉、長音、促音などがたくさん入っている文を使って聞き取り練習をする。この聞き取り練習の段階で、学生の間違ひから「去年」-「享年」、 「一緒」-「遺書」など長音、促音などが日本語の中で如何に重要か実例を紹介しながら説明できる。これらの段階を経て日本語を学習すれば、ワープロの使い方が上達してかなり自由自在に使いこなせるようになるばかりでなく、読む技術、書く技術、聞く技術も同時に習得できるというメリットがある。

3 2. HTML文書への変換、HTML文書の訂正

日本語のワープロである程度文章が書けるようになったら、次の段階はそれがインターネットで読めるようにHTML文書へ変換する作業である。ホームページに載せるための日本語の文をワープロで書いている時には特別な技術は必要ないが、HTML文書に変換する際いくつかのコマンドを学習しなければならない。特に大事なのは、リンクを作るためのコマンド(注2)、イメージを入れるためのコマンド(注3)などである。しかし、これらのコマンドは何度も繰り返し使用するので、何回か使っているうちに自然に覚えてしまう。

コマンドを入れてHTML文書ができ上がったら、それを文書を入れたり出したりするソフトを使ってインターネットで見られるようにする。インターネット上で

実際に書いた文書を見て、間違いがあったり、訂正したいところがある場合、そのソフトを使って簡単に直してまたインターネットに送れば完全なものができる。

また、最近ではホームページ作成用のソフトがかなり出回っているので、財政的に余裕があればそれらを購入して使うことができ、いちいちコマンドを覚える必要は全くなく簡単に作れる。

4 インターネットを日本語学習に使用した際の利点

4 1. 書いたものがすぐ見られ、修正・追加・削除などの変更が容易に可能

インターネットの最大の特徴は、ホームページ用に様々な文章を書き、書いた文章が正しいかどうかチェックする時にそれがすぐに見られることである。同じ書く作業でも、作文を書き先生に添削してもらおう場合は、提出してからしばらくしないと自分の書いたものが見られないが、ホームページの場合はHTML文書にしたらすぐにインターネット上で文書をチェックすることができる。これは、ランゲージ・ラボで学生が発音の練習をしていて先生にその場で発音を矯正してもらおうと同じで、書いてすぐその場で見られると、間違いがあった場合即座に直すことが可能になる。

もう一つの利点は、入れた静止画が気に入らない、文章に間違いがあった、バックグラウンドとテキストの色がうまく合わないなど、変更が必要になった時、簡単にできることである。この特徴は書いたものをすぐ見ることができるという上記の特徴と共に非常に重要な特徴である。変更にかかる時間が少なければ、学生が面倒臭いと感じるであろうが、簡単に変更することができて、しかも変更したものが即座に見られれば、学生の興味が持続するばかりでなくより良いものを作ろうという意欲も湧いてくる。

4 2. 自分の好きなようにデザインできる

ホームページは作る人の好みによってそれぞれ異なる。スクロール形式にして一枚の長いものにすることもできれば、リンクをたくさん作っているいろいろなところに行けるようにすることもできる。また、バックグラウンドやテキストの色を自分の好きな色を選んで使うこともできる。フォントを大きくして見やすいようにデザインすることもできるし、フリーウェアのグラフィックをコピーして視覚効果を高めることもできる。何か効果的なグラフィックが欲しい時には「ヤフー(Yahoo)」(注4)などの検索を利用して自分の手に入れたいフリーウェアを

コピーしてホームページにペーストすることも簡単にできる。バックグラウンド、アイコン、イメージ、罫線、矢印など様々なものが無料で容易に手に入られるので、その楽しみもホームページ作りをより興味深いものにする。この特徴は一見日本語の文書を書くことと全く無関係に思えるが、学生には重要な要素になっている。学生には他の人に読んでもらえるという気持ちがあるので、様々なグラフィックを駆使して自分のホームページをできるだけきれいなものにしようと努力する。

また、ホームページを見た人から反応をもらいたいと思ったら、自分宛の電子メールのリンクを作っておけば感想、意見、アドバイスなどがすぐもらえる。もらった日本語を読むのは生の日本語を読む練習になるし、ほとんどの場合学生が作ったホームページの内容についての話なので、学生にも分かりやすい。そこから個人的な付き合いが始まれば、授業の中での教師の日本語以外の日本語に接することにもなって学生には非常に有益である。

5 ホームページ作りの利点

5.1. 何かを作り上げたという満足感・達成感が得られる

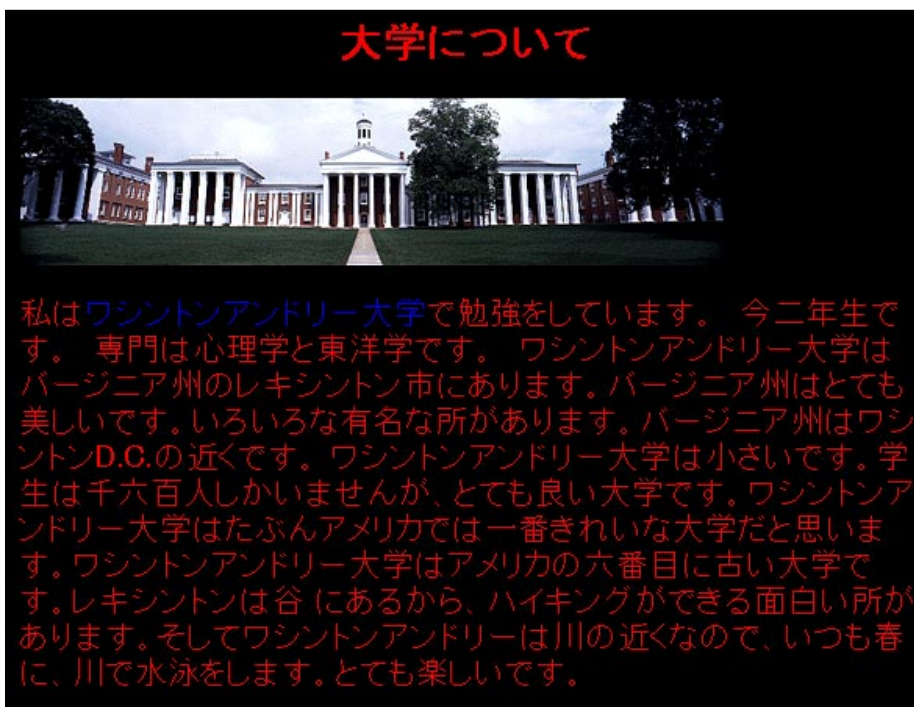
ホームページ作りを通して学生が得られる一番大きいものは、学習した文法・語彙を使って自分でまとめたものを作成したという満足感・達成感である。もちろん、スピーチを書いて発表した時や作文を書き終えた時などにもある程度満足感・達成感を感じるが、ホームページの場合は自分で作成した苦勞の結晶がインターネット上に残るので、なおさら強い満足感・達成感を感じるようだ。また、ホームページができるまでに、日本語のワー

プロが使いこなせるようになる、HTML文書を作成するためにコマンドを覚える、文書を何回も変更する、というようにでき上がるまでのプロセスがかなり長いので、自分が作ったホームページに愛着を感じるようになる。ある学生は自分のホームページが長くなるにつれて、「作る喜びが増し、もっともっと増やそうという意欲が湧いてきた」と言っていた。また、ある日本人に自分のページを読んでもらった学生は、漢字があまり多く入っていないことを指摘され意識的に漢字を使うようになり、「見た目も漢字が多くなって見やすくなった」と言って喜んでいて。苦勞して作ったページがインターネットに残って、作成したものを他の人に見てもらえるだけでなく電子メールでコメントがもらえる、などという点から大きい満足感・達成感を感じることができる。

5.2. 以前学習した基本的文型の復習が数多くできる

今年度は3年生と4年生にホームページを作らせたが、学生が書いた文章の中には簡単だが極めて重要な間違いがたくさんあった。「勉強するよりデートの方が楽しいです」、「レキシントンは小さいとききれいな町です」、「ワシントンDCに行き、美術館でたくさん絵を見ました」など1、2年生で習った基本的な文法の間違いが目立った。それは、初級の段階である文法項目をあるレッスンの中で習って集中的に口頭練習をたくさんしても、その後同じ文法項目に出会うことが少なくなり、忘れてしまうためだ。間違いがあった時、普通は間違いに下線を引いて学生に直させたが、みんなに共通に見られる間違いの場合には一人の学生の間違いをコピーしてクラス

の全員に渡して自分達で直させた。ここで重要な点は、教師が間違いを指摘するだけで、直すということをしていない点である。教師が直す時、学生は単にその間違いを見るだけで終わってしまい、あまり教育効果がない。多少時間がかかっても自分達でどうしてそれが間違いなのか気付かせる方がはるかに効果がある。何故だめなのか納得させた後でその文法項目を口頭でドリルをした。これは基本的な文型の復習に非常に効果がある。



学生が作成したホームページの例(1) (<http://www.wlu.edu/~earthur/>)

シアトルの友達

私はシアトルに三年間住んでいました。高校の一年から三年までシアトルにあるジョン・F・ケネディという高校に行って本当に面白かったです。たくさん勉強もしたし友達とカナダやキャノン・ビーチなど色々な面白い所にいきました。冬休みと春休みに毎年友達と一緒にスキーをしに行きました。夏休みの時は韓国に帰ってシアトルの友達と勉強をしたり旅行をしたりしました。私の友達はみんなソウルに住んでいるから、たびたび会いませんが、でも三か月に三回ぐらい会いました。シアトルにいる私の友達はジェイ・ジェイ、ジョセフ、アーノルドの三人です。三人みんな私と同じ高校を卒業してジェイ・ジェイとジョセフはシアトルにある大学に行っていますが、アーノルドはいまオレゴン大学に行っています。今も時々電話をしたり、手紙を書いたりしますが、毎日会わないから大変さみしいです。今から私の友達のことを紹介します。

学生が作成したホームページの例(2) (http://www.wlu.edu/~dseo/)

5.3. 四技能すべてが伸ばせる

ホームページ作成の過程で書く能力が伸ばせることは明らかだが、他に読む、聞く、話すの3つの技能も伸ばすことができる。自分が書いたものを確認する作業、教師に指摘された間違いを直す作業、他の学生が書いたものを読む作業を通して読む能力が伸ばせる。更に、当大学の場合実際に自分が書いたものを分かりやすい言葉で他の学生に説明する練習もする。また、その学生の説明を聞いて質問をしたり、自分の意見を述べたりする練習もするので、この過程を通して話す能力も聞く能力も伸ばすことが可能である。

5.4. 学生主体の授業が営める

一般的に普通の日本語の授業では、教師が授業の主導権を握っていて、教師が授業の内容を準備し、ある決まったペースで授業を行う。学生は教師の質問に答える、読み物を読んで書いてある質問に答える、など教師の指示である特定の作業をする。ところが、ホームページを作る作業は、初めは教師がどんなトピックについて書けばいいか具体的な例を示すが、実際の作業をするのはすべて学生である。学生がトピックを決め、書く内容を考え、実際に書く作業を行い、デザインなどもすべて自分で考える。学生が書いた文章に間違いが少なければ早く進むが、怠惰な学生がいて宿題をしてこなかったり、書く量が少なければそれだけペースは遅くなる。そういう場合には頑張ってもっと書くように教師が叱咤激励する。もちろん授業のペースは教師がコントロールするわけであるが、学生はさも自分が100パーセント授業をコントロールしているかのような錯覚を持つ。それで、良く準備できてきて間違いが少ない時にはスムーズに流れて満足感を味わう。ところが、宿題をして来なかったり、間違いが多くある場合には遅々として進まず学生は罪悪感を感じる。いずれの場合にしても学生主体の授業になる。

6. ホームページ作りの問題点とその解決法

ホームページを作る作業には上記のように様々なメリットがあるが、もちろん問題点もいくつか存在する。

まず、大多数の学生は興味を示すが、興味を示さない学生もいる。その学生をどう指導するかが大きい問題になる。当大学の場合、学生が書けそうなトピックをこちらから上げたり、今までに他の学生が書いたものを見せたりすることによって、自分にも書ける材料を学生に選ばれることで解決した。

また、ホームページ作成の作業は教師の負担を増やしてしまう。当大学の場合は3、4年生はいつも多くて4、5人なので、学生が犯した間違いの訂正が簡単にできる。ところが、一つのクラスの学生数が30人などという州立大学の場合は一人の教師が個々の学生の間違いを指摘しなくては行かないので、それだけ教師の負担が増えてしまう。常に新しいことを始めると余計な負担が教師にかかるが、ホームページ作成の場合も全く同じで、現在の仕事量とホームページ作成というプロジェクトを天秤にかけて行うかどうか決めなくては行かない。

7. まとめと今後の課題

このレポートでは、書いたものがホームページに載るまでのプロセス、日本語教育でのホームページ作成の利点、教育効果、ホームページ作成の問題点について論じた。今後の課題として、ホームページを作るプロジェクトを通して実際学生の書く能力がどの程度伸びるのかを数字で明らかにすることだと思われる。学生をホームページを作るプロジェクトをした学生のグループとそのプロジェクトをしなかった学生のグループに分けて比較対照して何らかの方法で二つのグループの違いをはっきりさせる必要があるだろう。また、他の日本語教育機関でもホームページを作らせるプロジェクトを行うお互いに情報交換ができれば、共同研究という形でもっと広範囲な研究ができるようになるであろう。

脚注

- (1) <http://www.wlu.edu/~kujie>
- (2) a href=" HTML文書の名前" HTML文書のタイトル /a
- (3) IMG SRC=" グラフィックの名前" グラフィックのタイトル
- (4) 日本語のURL: <http://www.yahoo.or.jp>、
英語のURL: <http://www.yahoo.com>

第10回国際懇談会

「専門分野の日本語教育を考える - 世界の外交官研修」

国際交流基金関西国際センター研修事業課



はじめに

国際交流基金は、平成元（1989）年度より、事業立案の参考とするため、毎年、海外の専門家を招いて「国際懇談会」を開催しています。

今年度は、関西国際センターの主催により、外交官の研修をテーマに、英国、米国、ロシア、中国の外交官研修機関から専門家4名をお招きし、1999年1月23日に大阪（関西国際センター・ホール）で開催しました。

当日は、日本語教育関係者、在日公館などから約70名のご参加をいただき、有意義な懇談会となりました。

パネルディスカッション

冒頭、コーディネーターの高見澤孟昭和女子大学教授より、自国の外交官に対する外国語研修は、外交活動の基礎となるため各国とも多大な予算とエネルギーを注入しており、その実績と経験は日本語教育にとっても示唆に富む内容となるだろう、との趣旨説明がありました。

パネルディスカッションは、セッションごとに各国パネリストの発表および意見交換が行われ、最後にフロアの参加者との活発な質疑応答が行われました。

1. 各国外交官研修・機関の概要

〔第1セッション〕

(1) 研修の位置づけ

英国、米国は、研修者の大半が外務省などの政府職員であるのに対し、中国、ロシアは、外務省管轄でありながら教育・研究機関としての機能を強く持ち、学習者のほとんどが学生となっています。

(2) 研修対象者

英国ではキャリア全体（18歳から50代後半）にわたって研修を受けることができ、米国では赴任前の政府職員（平均約40歳）やその成人家族も対象となります。

中国とロシアでは、外交官や国際的な分野の専門家を目指す学生を対象とし、きわめて高い割合で（ロシアの場合、約8割）外務省に入省します。現職外交官の上級研修も行ってあり、特に中国では、近隣諸国の若手外交

海外参加者

【英国】ヴァネッサ・デイヴィス Dr. Vanessa L. Davies

（外務省外交官語学研修所所長）

【米国】マリー・キム Dr. Wha-Chun Mary Kim

（国務省外交官研修所上級北京官話・日本語・韓国語担当スーパーバイザー）

【中国】任 小萍 Prof. Xiaoping Ren

（外交学院副学長/アメリカ学教授）

【ロシア】オレグ・ウリツフェロヴァ Dr. Oleg G. Ultsiferov

（モスクワ国際関係大学インド・イラン学部長/語学履修教授法委員会委員長）

国内委員

【コーディネーター】高見澤 孟 Prof. Hajime Takamizawa

（昭和女子大学文学部教授）

【コメンテーター】須藤 紀夫 Mr. Norio Sudoh

（外務省研修所教務主事）

【コメンテーター】西尾 珠子 Ms. Keiko Nishio

（社団法人国際日本語普及協会理事長）

官向けに中国語研修も実施しています。

(3) 研修の規模

英国、米国、ロシアでは、それぞれ約80、約60、52種類の外国語研修が行われています。中国では、学部低学年レベルでそれぞれ英語、フランス語、日本語が国際研究の副専攻として学習されます。

年間の研修者の概数は、英国が400名、米国が1,700名、ロシアは6,000名（半数が英語、日本語は約100名）で、中国は社会人・大学院生を含め2,000名です。

研修スタッフは、英国85名（非常勤講師、運営部門職員を含む）、米国は母語話者の教官が200名、中国は常勤の教官170名で全体で400名の職員、また、ロシアは教官500名となっています。

(4) 研修期間

英国と米国は言語の難易度により研修期間を4つに分けています。米国では、英語に近い西欧の言語は24週間、一方、最も習得困難とされる日本語、中国語、韓国語、アラビア語は88週間で、それぞれ横浜、台北、ソウル、チュニスに海外研修センターを設けています。

ロシアでは、学部課程4年、専門課程5年、修士課程6年に分かれています。

中国では、2年間の一般外国語（教養）課程を経て、高学年次に外交学などの専門科目と専門外国語教育が実施されます。

2 教育目標と訓練方法 [第2セッション]

(1) 到達目標と外国語能力

英国、米国では外交官の赴任前研修が主な研修(英国では85%)で、任地で必要なレベルの外国語習得、地域文化の学習などについて教育目標が明確に設定されています。

中国とロシアでは、主な教育目標は外交官試験のための準備です。外国語については、学年ごとに国家の外国語学習委員会が設定した規準を達成目標としています。

(2) 教育訓練方法

各国とも、研修生の需要に対応し、様々な研修を実施していますが、中国では、特に翻訳・通訳の訓練を重視しています。

米国では、研修生のニーズ評価と研修生・教官の協力関係を重要視してコースがデザインされています。

英国では、国内外の大学、語学学校と提携してトレーニング・パートナー・プログラムを設けています。

(3) 教材

英国、米国では、海外での職務に直結した地域情勢の教材など、ほとんどの教材を自主開発しています。

ロシアでは、初級テキストのほか、上級の地域研究教材、特にアジア諸国の情勢(人口、地理、行政、文化等)に関するテキストが充実しています。専門課程では、国際関係、経済、法律、時事問題の教材、外交文書、契約書、通信文、インターネットなどが使用されています。

また、各国とも、特に中・上級コースにおいて、実物教材が多用されています。

(4) 教官の体制

英国、米国ではネイティブ教官を重視しており、中国も多くのネイティブ教官を採用しています。ロシアでは、ネイティブ教官の能力は限定的に考えられています。

3 外国語能力の測定方法と評価

[第3セッション]

(1) 能力評価と試験制度

英国、米国では、公式試験で対象言語の実践的な習熟度が測定されます。ただし、米国では全てのレベルで共通の試験を行い、受験者の限界を測る特徴があり、他方、英国では、レベルごとの査定方法をとっています。

中国、ロシアの場合は、定着度テストの性格が強いといえます。例えば中国では、学習過程の評価と最終評価、コース別および各技能別テストという構成で、週間テスト、学期中間試験、学期末試験、卒業試験、スピーチコンテストなどが実施されています。

ンテストなどが実施されています。

なお、言語能力のレベル記述について国際標準化してはどうかとの提言も、第2セッションにおいて英国からなされました。

(2) 試験官の構成

ロシアでは、教官と試験官は同一人物であることが重要とされており、上級コースの教官が試験問題を作成し、試験官も兼ねます。

英国、米国では、試験官と審査官が明別されています。

また、中国では、教官が試験官を兼ねることを避ける傾向が強いものの、現状では難しいとのこと。ただし、口頭試験などは複数試験官制をとっています。

(3) 報酬と報償

ロシアでは、成績優秀者に対して大統領賞などがありますが、卒業それ自体が報償と見なされています。

中国では教育省管轄の統一的成績評価があり、その証明書は学業上の「パスポート」の機能を果たしています。

英国と米国は、昇給などの対象になり、レベルの高い評価を受けるほど有利になります。

パネルディスカッションの終わりに、コメンテーターの西尾瑠子理事長は、日本に赴任した外交官に日本語を教授した経験から、その長い歴史について俯瞰し、外交官のような専門別言語教育の重要性が日本語教育界でも認識される意義についてコメントされました。

最後に、高見澤教授は、「外交官の外国語研修では、学習者のニーズを明確に把握し、実務と直結させている。そのため、各国とも、周到な準備と多大な努力を傾注しており、非常に高い成果を上げていることが分かった。日本語教育においても、専門性の高い分野別教育において参考とすべきものが多く、今後一層の研究が望まれる。」と総括されました。

おわりに

専門性と言語教育の関係という視点から日本語教育を考えようとした今回の国際懇談会の試みは、「専門別日本語研修」という新しい課題を抱えている関西国際センターの事業に対し、多くの示唆を与えるものであったと思います。また、今後の詳細な分析により、専門日本語教育の発展にも寄与するものと思われれます。

最後になりましたが、今回、パネリストをお務めいただいた各専門家の方々、ご来場の方々に厚く御礼を申し上げます。



写真で見る 日本人の生活

「食べ物 日本人が好きな料理」

このコーナーでは、国際交流基金日本語国際センターが発行している、日本語教育用「写真パネルバンク」を使って、初中等教育機関で日本語を教える先生方が、どのように日本人の生活を紹介できるかを提案していきます。また、文型、単語、漢字は、初級の学習者でも読めるようにやさしいものを使っています。今回は「衣食住と道具シリーズ」を使って、日本人が好きな料理について取り上げます。クイズもありますので、いっしょに答えを考えてみてください。

日本人の朝食



日本人はご飯もパンもよく食べます。写真は日本人の朝食の例です。

質問1 朝食にご飯を食べる人とパンを食べる人では、どちらが多いでしょうか。



ご飯、みそ汁、魚、つけ物、納豆



トースト、コーヒー、目玉焼き、サラダ

めんの好きな日本人

日本人は「めん」も大好きです。ラーメンは中国の料理です。スパゲッティはイタリアの料理です。

質問2 日本人がいちばん好きなめんは何でしょうか。



ラーメン



そば



うどん



スパゲッティ





いろいろな日本料理

にほんりょうり

日本にはおいしい料理がたくさんあります。

質問3 下の料理の中で、子どもにいちばん人気があるものはどれでしょうか。

しつもん した りょうり なか こ にんき



← すき焼き

牛肉や豆腐、野菜（ねぎや白菜など）を入れます。
生卵につけて食べます。

ぎゅうにく どうふ やさい はくさい い なまたまご た

てんぷら →

エビ、魚、野菜などを油で揚げます。
天つゆか塩をつけて食べます。

てん しお た



さしみ →

生の魚やエビ、タコ、貝などを小さく切ります。しょうゆとわさびをつけて食べます。

なま さかな がい ちいさく き しょうゆ わさび た



← すし

生の魚や貝、イカをご飯にのせます。のり巻き（のりで巻きます）もあります。しょうゆをつけて食べます。

なま さかな がい いか ごはん はん のせま せま のり まき ま しょうゆ た

答え

こた

質問1 ご飯（68%の人がご飯を食べます。28%の人がパンを食べます。）

質問2 うどん（2ばんはそば、3ばんはラーメン、4ばんはスパゲッティです。）

質問3 すし（2ばんはステーキ、3ばんはラーメン、4ばんはさしみ、5ばんはピザです。）

しつもん

データは次の新聞からとりました。

質問1と2：「朝日新聞」1996年5月26日「朝日新聞世論調査」

質問3：「朝日新聞」1994年12月19日「くもん子ども研究所・食スタイルの調査」

しつもん

このコーナーの担当者：中村雅子（日本語国際センター専任講師）

たんとつしゃ なかむらまさこ

にほんごこくさい せんになんこうし

34号から担当者が変わりました。

ごう たんとつしゃ か

授業のヒント

今回は、日本語のクラスに日本人を招いたときの活動の考え方とそのアイデアを紹介いたします。

テーマ 日本人と話そう

目的・教えること <small>もくてき おし</small>
<ul style="list-style-type: none"> 日本人と日本語でコミュニケーションをすること 日本や日本人について知ること
学習者のタイプ <small>がくしゅうしゃ</small>
どんなタイプでも（レベル、学習者のタイプに合わせた活動を考える）
クラスの数 <small>にんすう</small>
何人でも（人数に合わせた活動を考える）
準備するもの <small>じゆんび</small>
（活動によって異なる）

日本人との交流

海外での日本語教育の問題点の一つとして、教室の外で日本語を使う機会がないため、学習者の動機が高まらないということがよく言われます。もし、みなさんの学校に日本から見学に来る人がいたら、また、近くに日本人が住んでいたら、授業に参加してもらって、教室の中で学習者が日本人と日本語で話す機会を積極的に作ってみてはどうでしょうか。

近くに日本人会のような団体や日本人が多く働いている会社があれば、連絡をとってみるのも一つの方法です。ただ、日本語教師だけの判断で訪問者を受け入れることができない学校もあるでしょうから、それぞれ必要な情報を集めてください。

教師の役割・気をつけること

(1) 活動の準備

日本人参加者と学習者に自由に会話をしてもらうということも可能ですが、学習者によっては、会話がうまく進まず、その結果、自信を失ってしまうこともあります。学習者のレベルや具体的な学習目標に合った活動を計画、準備することが大切です。

a. 授業の前に（学習者に対して）

クラスで日本人との活動で使う日本語を学習したり、

話す内容を相談したり、学習者同士で練習したりしておきます。

b. 授業の前に（日本人参加者に対して）

学習者のレベルや特徴、参加してもらう授業の目的を知らせ、注意することを伝えます。活動の目的やレベルによって、媒介語を使うのが効果的だったり、できるだけ日本語だけで話してもらった方がいいこともあります。

c. 授業の始めに

学習者も日本人参加者も初めて会ったときはとても緊張しています。活動の前に体を動かさずゲームなどをして、話しやすい雰囲気を作るようにするといいでしょう。

(2) 柔軟な対応

準備した方向と少しずれてしまっても、学習者も日本人参加者もやりとりを楽しんでいるようなならそのまま続けてもいいでしょう。(1)で述べたことと矛盾するようですが、計画通りにいかなくても、日本人との交流の経験そのものが、教科書を使って何時間か勉強するよりも大きい効果を上げることもあります。ですから、少しぐらい失敗したと思っても、学習者や日本人参加者の反応を観察し、この次に同じような活動をするときに何を注意したらいいか考えるようにするといいと思います。

(3) 活動の評価

日本人参加者との活動の後で、学習者といっしょに活動を振り返ることも大切です。日本語をはじめ、日本人の非言語行動や会話の内容についてなど、学習者にとっちはたくさんの発見と学習のヒントがあったはずですが、みんなで感想やこれからの学習について話し合うといいでしょう。

日本人との活動例

準備がそれほど必要ではなく、日本人といっしょにできる簡単な教室活動の例を紹介します。この活動は、タイにある国際交流基金バンコック日本語センター専任講師の深澤伸子さんからのアイデアです。



(1) インタビュー (初級)

目的・使う文型
もくてき つか ぶんげい

「～ができる」(または可能形)の練習
かのうげい れんしゅう

人数
にんずう

何人でもいい。(大人数でもできる。)
なんにん おおにんずう

手順
てじゆん

①学習者と日本人の割合が同じになるように二つのグループに分ける。

②「テニスができますか」「車が運転できますか」などと聞いて、話したい雰囲気を盛り上げてから、シートを配って活動の説明をする。

③一方のグループの人が、もう一方のグループの人とペアになってお互いに質問して結果をシートに書く。人数や時間の制限をつけてゲームにするとより楽しくなる。

できること なまえ			
やまだ	○	○	×

○...できます ×...できません

④何人かの学習者や日本人参加者がインタビューの結果を報告する。

質問の内容が全く同じだと質問が相手にわかってしまい、相手がきちんと聞かずに答えてしまうので、インタビューの項目は、日本人用と学習者用とを変えてもいいでしょう。例えば日本人用の質問に「ビールが飲めますか」や「着物が着られますか」や「生け花ができますか」などを入れておきます。インタビューの後で結果を話し合うと、日本人だからといって、みんなができるわけではないことがわかっておもしろいでしょう。

(2) ロールプレイ (中・上級用)

目的・使う文型
もくてき つか ぶんげい

相手を説得する練習。それまで学習したいいろいろな文型を使う。「～はいかがですか」「～がいいと思います」など。

人数
にんずう

15人程度、日本人は5、6人いるといいが、少なくともよい。

手順
てじゆん

①学習者は2、3人ずつグループを作り、「不動産屋」

「自動車販売業者」「旅行者」などになる。客に見せるパンフレットなどを用意させてもよい。

②日本人参加者は客になる。

③学習者は客の希望に合わせて商品をすすめたり、プランを提示して、買わせようとする。客はすすめられて、気に入ったらその商品を買う。気に入らなかったり、その気になれなかったら断ってもよい。

④活動の後で、学習者はクラスに結果を報告し、日本人参加者は買った理由や買わなかった理由を言う。

この活動で大切なことは学習者も日本人参加者も「その気」になることです。日本人参加者には教師がロールカードを書いて役割をあたえてもいいですが、実際の家族構成や年齢、状況などから自分で決めてもらうと、その役になりやすいかもしれません。

こうした活動では、日本人参加者の役割がとても大切です。深澤さんはいつも次のようなことを日本人参加者に注意してほしいと言っているそうです。



- ・何よりも楽しそうに話すこと
- ・教師になって、日本語を教えようとしないこと
- ・おおげさにせずに自然に話すこと
- ・わからなかったら、まずもう一回言って、それでもわからなかったら言い方を変えてみる。わからないからと言ってすぐに話題を変えないこと

皆さんの日本語のクラスが、学習者にとっても、日本人参加者にとっても、楽しい交流の場になることを期待しています。

参考文献

1. ニュースプニー、J. V. (1995) 『新しい日本語教育のために』(第7章ティーチング・アシスタントの活用) 大修館書店
2. 岡部真理子 (1997) 「ビジターセッションのすすめ」『月刊日本語』7月号アルク

このコーナーの担当：北村武士、八田直美 (日本語国際センター専任講師)

読者の皆さんのアイデア、成功例、失敗談などをお寄せください。

どくしゃ みな せいこうれい しっぱいたん よ



「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。紙面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っていると便利な図書・資料」などを取り上げます。

- データ凡例 ①著者 ②出版社 ③刊行年月 ④ISBN ⑤判型・ページ数 ⑥定価 ⑦その他



授業にも自習にも使える初級のためのテープ教材

『初級日本語聴解練習 毎日の聞き取り50日 上・下』

データ

上巻①宮城幸枝、三井昭子、牧野恵子、柴田正子、太田淑子②凡人社 〒102 0093 東京都千代田区平河町1 3 13 菱進平河町ビル1F / TEL 03 3263 3959 FAX 03 3470 2129) ③1998年 6月15日④4 89358 396 4⑤B 5判・68ページ⑥2,100円⑦別冊本文スク립ト解答例(62ページ)付、別売カセットテープ90分2巻 3,675円(4 89358 397 2)

下巻①②は上巻と同じ③1998年10月20日④4 89358 405 7⑤B 5判・66ページ⑥2,100円⑦別冊本文スク립ト解答例(60ページ)付、別売カセットテープ90分2巻 3,675円(4 89358 406 5)

初級学習者の聞き取り練習のために

日本語を勉強するとき、「聞く」練習はとても大切です。しかし、日本語の勉強を始めたばかりの人が使えるテープ教材は、

これまであまり多くありませんでした。

今回、そのような初級の学習者のための聴解教材が、新しく出ました。それがこの「初級日本語聴解練習 毎日の聞き取り50日」です。これは、前からあった中級のための「中級日本語聴解練習 毎日の聞き取り50日」と同じシリーズです。本文の漢字には全部ふりがながついて、問題文には英語、韓国語、中国語の訳もあります。難しい言葉には「注」の説明もありますから、初級の人でも使いやすいです。

いろいろな聞きかたが少しずつ練習できる

この教材には、上・下であわせて50の課があります。一つ一つの課には、①「基本練習」②「会話を聞きましょう」③「書きましょう」という三つの部分があります。

「基本練習」では、文法や文型を考えたながら、テープを正しく聞きとる練習をします。

「会話を聞きましょう」では、自然な会話を聞いて、その中から大切なことを

理解する練習をします。

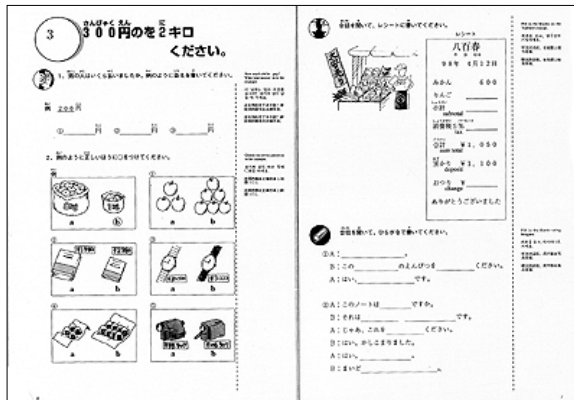
「書きましょう」はディクテーションです。テープを聞いて、文を正確に書き取る練習をします。

このように、一つの課の中で、言葉をこまかく正確に聞いたり、全体を聞いてほしいの意味を理解したりと、いろいろな聞きかたが練習できるようになっています。

一つの課は全部2ページずつですから、毎日少しずつ同じぐらいの練習ができます(毎日一課ずつやっつけていけば、50日で終わりです!)。テープの日本語は普通の速さに近いスピードで録音されていますので、毎日聞けば日本語の聞き取りに慣れることができるでしょう。

文法や文型の練習にも役立つ

それぞれの課では、その課で勉強する文法や文型が決まっていますから、授業で文法や文型の練習をするときにも、このテープ教材を使うことができます。新しい文型をテープで聞いて練習したり、会話を聞いて前に習った文型を復習したりするのに役に立つでしょう。



自然な日本語を楽しく覚えるための教材

『風のつばさ - ここは楽しい日本語の世界 - 』



データ

■鈴木紳郎発行：アークアカデミー (〒150 0002 東京都渋谷区渋谷 1 9 1 / TEL 03 3409 0391 FAX 03 3409 4985) 発売：凡人社 (〒102 0093 東京都千代田区平河町1 3 13 菱進平河町ビル 1F / TEL 03 3263 3959 FAX 03 3470 2129) 1998年 5月1日 44 89358 393 X 5A 4 判・90ページ 62 940円 7 聴解CD 2枚 組み付(付属スクリプト、英語訳256ページ) 4,725円 (4 89358 411 1)

視覚的にも内容的にも 楽しく学べる

この教材は話題や語彙を中心とした読解のテキストです。文法事項はほとんど初級前半の学習項目に限られていますが、実際の生活の中によく出てくる話題や内容をとり扱っているため、初級の学習者だけでなく、中上級レベルの学習者もたくさんのことばや自然な言い方が勉強できます。カラフルな写真やイラストがたくさん取り入れてあるので、それらを見ながら楽しく学べます。



P. 18 - 19

身近な話題

この教材は全部で35の話題からなっていますが、大きなジャンルは、「物語」「情報」「レジャー」「探検」「生活」「文法」「街」の7つです。例えば、「物語」というジャンルの下に、「ミステリー」「時限爆弾」「悲劇のヒロインダイアナ妃」「劇的な人生」「世界へはばたく日本人選手」という5つの話題があります。話題の一つ一つはそれぞれ独立しているため、興味のあるところから始めることができます。

四技能のバランスを考えた構成

各話題は、「タイトル」「クイズ」「本文」「ミニタスク」「学習文型」「学習語彙」「文法と数」という構成になっています。

「タイトル」では取り上げる話題の名前が示してあります。読む前にその話題について知っていることを話したり、考えてみたりすることができます。

「本文」は話題によって形式が異なりますが、会話もあれば、文章もあります。

「ミニタスク」はさらに「話しましょ



目次前ページ

う」「考えましょ」「文を作りましょ」「話しましょ」「答えください」などのコーナーに分けられています。

「話す、聞く、読む、書く」の四技能を使って、これらのミニタスクをこなすことによって、その話題に出てきた文型や語彙を覚えることに結びつけることができます。

「学習文型」では、必要な文型が提示してあります。

「学習語彙」では、必要な語彙が示してあります。1つの話題に約50の語が入っています。全部で約1,900語取り上げられています。

「文法と数」では、動詞の活用、自動詞と他動詞の区別、形容詞、数の数え方などが表やイラストなどで分かりやすくまとめてあります。

なお、このテキストは漢字には読み仮名が全部ついているので、漢字をまだ勉強していない学習者にも読めます。また、別冊として、指導書と聴解CDスクリプト(英語版、韓国語版、中国語版、ポルトガル語版、スペイン語版、フランス語版、ドイツ語版)が付いています。

p.16 ~ 19は、以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

磯村一弘、高偉建、向井園子、木山登茂子、内藤満、藤長かおる



敬語を使うことの意味を考える一冊

『敬語表現』

データ

■蒲谷宏、川口義一、坂本恵、大修
 館書店 〒101 8466 東京都千代田区
 神田錦町3 24 / TEL 03 3295 6231
 FAX 03 3295 4108) ■1998年10月
 15日 ■4 469 22143 0 ■B 5 判・236
 ページ ■2 310円

昨今、「敬語の乱れ」を含め、広い意味で「日本語の乱れ」が、とりざたされています。敬語を使う側にも、正しい形を操ることだけで事足りるとする態度が見られることがあります。他方、敬語を取り扱った本もたくさん出版されましたが、中にはいわゆる「正しい敬語」を強調するあまり、形にとらわれた解説に終わっているものも見られるようです。

本書がそのような本といささか違うところは、表題が『敬語』ではなく、『敬語表現』となっていることからもうかがえます。つまり、敬語を、単に文法項目として狭くとらえず、円滑なコミュニケーション

シヨンのための一つの表現手段という、より大きな視点からとらえ直しています。全体は4章からできています。1章では「敬語表現」の枠組みを論じる中で、より現実的なアプローチのための基本的な単位を考えます。2章では、一つの敬語が場面によって異なった意味を表すという現実を理解するため、「敬語」を抽象的なレベルと具体的なレベルの二つに分け、詳しく論じます。

3章では「敬語表現」の根底に「丁寧さ」の原理を認めた上で、「行動・決定・利益」の三つの基準が適切な敬語表現につながると論じます。4章は、以上を踏まえ、様々な例をとりあげながら適切な敬語表現を具体的に探ります。

この本は、日本語学習者の教材ではないので、学習者がこれを読んで、すぐ

敬語が上手に使えるようになるというよ
 うな本ではありませんが、敬語を一応自然に使えるレベルにまで到達した上級の学習者や教師には、敬語表現の理論的整理をする手だてとなるでしょう。また、日本人には、言語生活における敬語のコミュニケーション機能を自覚する上で大きな示唆を与えてくれるでしょう。

P.116 - 117



上級者向けのくわしい使い分け辞典

『類義語使い分け辞典』

データ

■田忠魁(ティエン・チュンクイ)、泉原省二、金相順(キム・サンソン) ■研究社出版(研)
 102 8152 東京都千代田区富士見2
 11 3 / TEL 03 3288 7777 FAX 03
 3288 7799) ■1998年 8月25日 ■4
 327 46135 0 ■B 5 判・743ページ
 ■64 725円

ふだん何気なく使っているがどう違うのかと聞かれるとうまく説明できないのが、類義語の使い分けでしょう。日本語教育の専門家によって編集されたこの辞典を読んでいくと、語の中心的な意味を踏まえながら、類義関係にある言葉の差異や使い分けのルールがだんだん明らかになってきます。

見出し語は5,000語以上、類義語辞典

の中で最も語彙数の多いものの一つと言えます。

見出し語は、「中心語」と呼ばれる類義語群とその関連語、反対語から構成されています。各項目は、①「意味説明」、②「例文」、③「置換」、④「解説」、⑤「補足」の順になっています。「意味説明」では「中心語」で挙げられた各語の意味が一挙に定義されており、「例文」にその簡単な文例が提示されています。この辞典の特徴とも言えるのが「置換」と「解説」の部分で、例文中の語の置き換えの可否を含め、使い分けについての詳しい解説があります。「補足」では、主に関連語や反対語についての例文とその説明があります。

この辞典の使い方は、「ひく」というより「読む」と言った方がいいかもしれません。

せん。使いこなすには上級レベルの日本語力が必須ですが、言葉に興味のある人にとっては、読みごたえのある辞典です。

相変わらず・依然として

相変わらず：過去の時期と比較したとき、現在の状態に変化のない様子。依然として：打ち消しと呼应し、動作・状態が固定したまま変化のない様子。
 【例】このあいだ此られたばかりなのに、相変わらず遅刻ばかりしている。
 【注意】置き換え不能。「相変わらず」は名詞・副詞で、「こちら相変わらず元気に暮らしております・相変わらず人に不自由しないのか、派手な生活をしている・相変わらず成績はクラスで一番・相変わらずの頑張り屋」など、以前のプラスの状態が、マイナスの方向へ変化していない様子を表す場合と、「景気は相変わらず回復しない・日本に来てずいぶん経つが、日本語の発音は相変わらずよくならない・大学生になっても相変わらず漫画の本ばかり読んでいる・

3 異-異
 結婚して子どももできたのに、そっかかし事は相変わらずだ・相変わらずの専業主婦」など、プラスの方向へと変化していかぬはずなのに、以前のマイナスの状態が打ち消している様子を表す場合がある。どちらの場合でも、名詞副詞以外、打ち消しと呼应する「依然として」に置き換わる。
 「依然として」は「行政改革は専念のみで問題解決した。社内の問題解決した状況が改める必要がある・異業連携の考えは依然として」も置換されているのが「依然として」などと置換される場合もあるが、「依然として」の形で、「依然として置換できない・異業は依然として置換しにくい」という場合など、多く打ち消しと呼应して「いまだ(ずっと・引き続き)〜という状態のまま」だ」という意味を表す副詞・名詞で、副詞としてだけ使われる。

国際交流基金開発教材紹介

『教科書を作ろう』

中等教育向け初級日本語素材集

今年3月に『教科書を作ろう 中等教育向け初級日本語素材集』が刊行されました。これは、国際交流基金日本語国際センター制作事業課が海外の中等教育レベルの日本語教育に対する支援の一環として企画・制作したものです。『教科書を作ろう』は、タイトルにもあるように、部分的に利用したり、一部を加工をしたりして、さまざまな教材が作成できる素材集です。この素材集を使って、楽しく日本語が学べるような教材が各国で開発されることを期待しています。

日本語国際センター制作事業課

1 『教科書を作ろう』とは

『教科書を作ろう』は、教材を作るときに参考にできる素材を集めたものです。教材を作る人が必要な部分を取り出したり、ことばや例文を入れ替えたり、翻訳をしたりして、自由に使うことができます。

海外の中等教育レベルの日本語教育は、その目的、学習時間、学習環境などが国や地域によってさまざまです。また、学習者に合った教材がないということもしばしば言われます。この『教科書を作ろう』は、それぞれの地域の事情に合った教材の作成を支援することを目的としています。

『教科書を作ろう』の概要

対象とした使用者 たいしやう しやうしや	海外の日本語教材作成者 かいがい にほん ごきやうざいさくせいしや 日本語教師 にほん ごきやうし
対象とした学習者 たいしやう がくしやうしや	海外の中等教育レベルの学習者 かいがい ちゆうとうきやういふく がくしやうしや
学習段階 がくしやうだんかい	初級前半 しよきやうぜんはん
内訳 うち わけ	「せつめい編」A4版 192ページ 「れんしやう編」A4版 310ページ 付属の音声テープ45分 1本

『教科書を作ろう』は、ことばのしくみと使い方の理解をめざした「せつめい編」と、ことばの定着と使用のための練習を集めた「れんしやう編」の2編からできています。



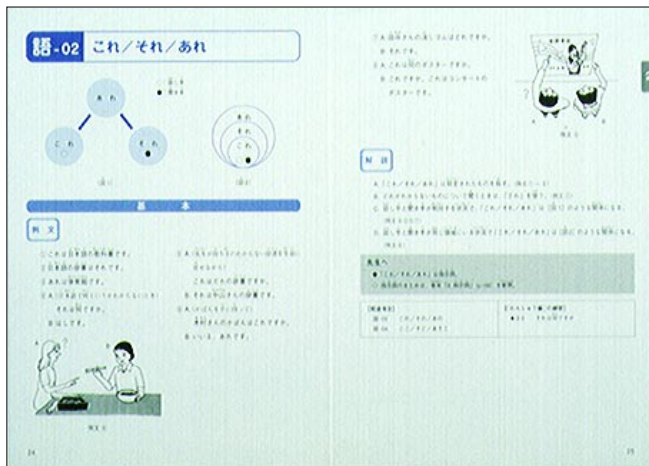
「せつめい編」、「れんしやう編」、テープ

「せつめい編」と「れんしやう編」の各編は、共通の12のブロックに分かれています。この12のブロックは学習の段階、つまり学習順序を示すと同時に、図1のように学習者の身近な話題にそった学習を一つの例として示しています。

(図1)

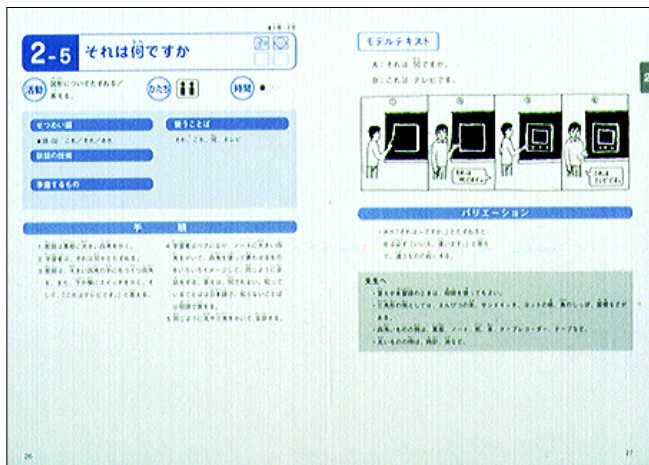


「せつめい編」には、初級前半（日本語能力試験4級相当）の文法・文型84項目の構造と使い方についての説明、及び理解を助けるための例文を載せました。それぞれの項目の説明は、コミュニケーションに最小限必要な知識からより詳しい情報まで、3段階に分かれています。これは、教材作成者が対象となる学習者に合わせて教材に載せる内容を選ぶように配慮したためです。



「せつめい編」語 02 (P. 24、25)

「れんしゅう編」では、図1で示した12の話題にそった100の練習を紹介しています。同じ教室で学ぶ学習者同士が日本語でコミュニケーションできるようになることを目標としています。練習の中には、語彙や文型の定着のための基本的な練習、実際に情報をやりとりする応用練習、ゲーム的な要素を取り入れた練習、日本や日本人について知ることができる読解練習などがあり、練習の目的や方法の多様性、四技能のバランスにも配慮しています。



「れんしゅう編」2 5 (P. 26、27)

2 『教科書を作ろう』の利用

『教科書を作ろう』は本来、教科書を作成するための素材として作られたものですが、そのほかに、「せつめい編」からは学習者用文法書や教師用例文集を、「れんしゅう編」からは会話集、聴解教材、読解教材、作文教材、教室活動集などを作ることが考えられます。また、教師養成や教師研修の教材としても活用できます。さらに毎日の授業のための副教材作成や学習者への説明の準備にも使えます。

3 入手方法

『教科書を作ろう』は非売品ですので、書店などで買うことができません。希望する学校、機関には無料で配布しています。入手を希望する方は、制作事業課に直接ご連絡ください。申込書をお送りします。また『教科書を作ろう』は、個人宛ではなく、学校、機関宛にお送りします。

国際交流基金日本語国際センター制作事業課

〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36

TEL .048 834 1183

FAX .048 831 7846

なお、以下のホームページでも『教科書を作ろう』の内容を一部紹介しています。

<http://www.jpff.go.jp/j/urawa>

『教科書を作ろう』の中には、アンケートが入っています。今後の事業の参考にさせていただきますので、ぜひアンケートにお答えいただき、みなさんのご意見やご感想を制作事業課までお知らせください。

NEWS NEWS NEWS ニュース

1998年度日本語能力試験の結果について

昨年12月6日(日)に国際交流基金と(財)日本国際教育協会の共催で実施された、1998年度日本語能力試験の結果がまとまりました。試験は日本国外33の国・地域の75都市、日本国内6地域で実施され、日本国外で100,893人(前年度比約30%増)、日本国内で29,492人(同約11%増)が受験しました。

各級の受験者数、認定者数、平均点は、別表のとおりです。

級別	受験者数(人)	認定者数(人)	認定率(%)	平均点 (400点満点)	
	A	B	B/A		
国 外	1級	22,566	8,302	36.8	258.5
	2級	26,867	7,046	26.2	208.3
	3級	28,362	14,751	52.0	239.5
	4級	23,098	10,424	45.1	228.0
	小計	100,893	40,523	40.2	-
国 内	1級	17,516	8,319	47.5	269.2
	2級	5,642	2,054	36.4	221.3
	3級	4,014	2,876	71.6	272.3
	4級	2,320	1,660	71.6	269.1
	小計	29,492	14,909	50.6	-
合計	130,385	55,432	42.5	-	

なお、1999年度の試験は12月5日(日)に実施される予定です。詳細は、7月頃に下記までお問い合わせ下さい。

国外:

国際交流基金関西国際センター試験課
〒598 0093 大阪府泉南郡田尻町
りんくうポート北3 14
TEL: +81 724 90 2603

: +81 724 90 2803

E-Mail: jlpinfo@jpf.go.jp

ホームページ:

http://www.ijnet.or.jp/jpf/
jlpt/contents/home.html

国内:

財団法人日本国際教育協会
事業部日本語・統一試験課
〒153 8503 東京都目黒区駒場4 5 29

TEL: +81 3 5454 5215

: +81 3 5454 5235

ホームページ:

http://www.aiej.or.jp/
index2.html

日本語教育事情報告編 『世界の日本語教育』第5号発刊

日本語国際センターが編集・発行している日本語教育事情報告編「世界の日本語教育」の第5号が発刊されました。この事情報告編は、各国の日本語教育の動向や教育現場での実践を紹介するために隔年発行しているものです。第5号では、韓国、中国、インドネシア、オーストラリア、米国、ブラジルの状況について日本語教師養成・教師研修を中心に報告するほか、各国から投稿されたレポートを掲載しています。

なお、本報告編は国内外の主要な日本語教育機関に寄贈されるほか、市販(定価2,200円)もしておりますのでどうぞご利用ください。

市販についての問い合わせ先:

(株)凡人社

〒102 0093 東京都千代田区平河町 1
3 13 菱進平河町ビル8階

TEL: +81 3 3263 3959

FAX: +81 3 3263 3116

ジャカルタ日本語センターが ニューズレター発行

休刊中だったジャカルタ日本語センターのニューズレターが、『EGAO』という新しい名前で、今年1月から発行を再開しました。

『EGAO』は、1、4、7、10月の年4回の発行で、インドネシアの日本語教育機関に無料で配布しています。

お問い合わせは下記までお願いします。

Pusat Kebudayaan Jepang

Bagian Bahasa Jepang

(The Japan Foundation Jakarta
Language Center)

Summitmas I, 2 3F

Jalan Jenderal Sudirman, Kav. 61 62

Jakarta Selatan 12190, Indonesia

TEL: +62 21 520 1266

FAX: +62 21 525 1750

『日本語国際センター』ホームページ - アドレスと内容が変わりました -

日本語国際センターのホームページのアドレスが変わりました。新アドレスは、<http://www.jpf.go.jp/j/urawa>(和文)と、<http://www.jpf.go.jp/e/urawa>(英文)です。

また、センターが制作を支援した各国の日本語教材を国別にまとめた「日本語教材制作助成・日本語教育フェロシップ成果教材一覧」やセンターからの最新情報をまとめた「お知らせ」のコーナーが加わり、内容も充実しました。

世界各地の日本語教師会のホームページとリンクを張るなど今後もよりよいホームページ作りを目指していきます。ご意見や情報をお寄せください。

『日本語教育通信』第34号

1999年5月発行

発行・編集 国際交流基金
日本語国際センター 情報交流課

〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36

The Japan Foundation

Japanese-Language Institute, Urawa

(6-36 Kita-Urawa 5 chome, Urawa-shi,

Saitama 336-0002, Japan)

TEL 048 834 1184 FAX 048 830 1588

E-Mail jfnckt@jpf.go.jp

編集協力

財団法人 国際文化交流推進協会

Assoc. ACE Japan (Japan Association for
Cultural Exchange)

© 1999 by The Japan Foundation

(表紙イラスト: 村井宗二)

○ 編集部から ○

前号で実施したアンケートには、たくさんのお返事をいただき、どうもありがとうございました。

『日本語教育通信』の読者は、国も、所属機関の性格も、日本語を教える対象も本当に様々ですので、全ての記事が役に立つとは限りませんが、「この部分は役に立つ、参考になる」と思っていただけの記事が少しでも増えるよう、アンケートのご意見を参考にさせていただきます。

また、読者の皆さんも、送られてきた『通信』を他の先生も読めるような場所に置いていただくなど、少しでも多くの

方に読まれるようにご協力いただければ幸いです。

日本語国際センターは、今年で開設10周年を迎えます。10周年記念のシンポジウムなども行われる予定ですが、『日本語教育通信』は、9月発行の35号を「10周年記念号」としてお送りする予定です。

(情報交流課 田中 伸一)

*編集部では、『日本語教育通信』に対するご意見や皆さんの学校の状況などを書いたお手紙をお待ちしています。